

令和元年度

第一回 江戸川区総合教育会議

会議録

日 時：令和元年12月24日（火）午後1時

場 所：第一委員会室

## 構成員

江戸川区長	齊 藤 猛
江戸川区教育委員会	
教育長	千 葉 孝
教育長職務代理者	古 巻 勲
委員	蓮 沼 千 秋
委員	石 井 正 治
委員	庭 野 正 和

## 関係職員

副区長	山 本 敏 彦
経営企画部長	近 藤 尚 行
経営企画部企画課長	矢 作 紀 宏
文化共育部長	石 塚 幸 治
子ども家庭部長	松 尾 広 澄
教育委員会事務局	
参事	柴 田 靖 弘
学務課長	田 島 勉
指導室長	近 津 勉
学校施設担当課長	石 塚 修

<p>矢作企画課長</p>	<p>開会時刻 午後1時</p> <p>それでは、チャイムが鳴りましたので、始めさせていただきます。本日は、お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>これより、会議を開始させていただきますが、本日の会議は江戸川区総合教育会議運営要領に基づきまして、公開で開催させていただきます。</p> <p>これより、傍聴人を入場させたいと思います。本日の傍聴人は6名でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">〔傍聴人入室〕</p>
<p>企画課長</p>	<p>それでは、ここから先の進行は、区長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>斉藤区長</p>	<p>本日は、お忙しい中、お集まりをいただきましてありがとうございます。日ごろから教育委員の皆様には、本区の教育行政について、さまざまな面で深くかかわっていただきまして、まことにありがとうございます。本日は、皆様にいろいろな場面でご意見をいただきまして、この総合教育会議を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>この総合教育会議は、前回は平成28年3月開催で、それ以来ということになります。28年3月の総合教育会議を経て、江戸川区の教育大綱が策定されておりまして、現在に至っているところでございます。</p> <p>地教行法の中でも、「地方公共団体の長は大綱を定め、または、これを変更しようとするときは、あらかじめ総合教育会議において協議するものとする」と規定をされております。</p> <p>本年4月、私自身、多田区長から区政を引き継ぎました。この教育大綱につきましても、改めて策定をさせていただきたいと考えております。本日は、教育委員の皆様お一人お一人から、さまざまなご意見をいただければと思います。</p> <p>また、この総合教育会議でございますけれども、首長が設置、招集ということになっておりますので、僭越ではございますが、私自身が進行させていただくのをお許してください。</p> <p>それでは、議題を進めてまいります。</p> <p>まず最初に、総合教育会議の運営ということでございますけれども、お手元に「江戸川区総合教育会議運営要領」をお配りしておりますので、この資</p>

料で説明にかえさせていただければと思っております。

また、この会議の出席者につきましては、運営要領で構成員、関係職員を規定しておりますので、あわせてご確認ください。

続きまして、教育大綱の策定、中身についての議論に移らせていただきます。

まず、教育大綱の策定そのものについてなのですが、現行の大綱では、江戸川区の基本構想を踏まえまして、「家庭・地域・学校の協働による総合的人間教育」を基本目標としております。さらに、基本方針として三つ掲げております。一つ目が「家庭教育の充実」、二つ目が「地域での教育活動の実践」、三つ目が「学校教育の充実」という三本柱です。それぞれ教育委員の皆様からいただいた意見をまとめた上で、今後の方向性を示しました。

本区の教育大綱は、こうした中で策定されたものであるということ、これは教育委員の皆様、よくご存じのことと思います。一方で、この大綱を策定いたしましてから3年を経過する中で、国や都、それぞれ制度が大きく変わっているところもございます。例えばで申し上げますと、教育振興基本計画、また東京都の教育ビジョン、こういったものも、この間に改訂をされているところがございます。

本区におきましても、いわゆる子どもの貧困問題に対する成長支援の事業を実施しております。また、学校においては、働き方改革の推進を初めといたしました学校現場を取り巻く環境の変化、児童虐待、あるいは不登校、子どもが被害者となる痛ましい事件など、学校・家庭・地域の環境も当時と異なっていることも確かなところがございます。こうした環境の変化の中で、江戸川区の教育大綱につきましても、改めてご議論をいただきたいと思っております。

まず最初に、全体的にこの大綱の策定につきまして、教育委員さんからご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

古 巻 委 員

3年前の大綱をつくったときには、私はかかわり合っておらないのですが、読ませていただきました。この大綱に関しては、大変によくできているのではないかなと感じております。したがって、大幅に直す必要はないとは思いますが、先ほど区長からお話がありましたように、この3年の間に法制度が変わってきている部分もありますので、そういったところを見ながら、具体的なところをある程度意識をして、直していくべきところは直しがあってもいいのではないかと感じました。

区 長	<p>ありがとうございます。その他のご意見、ございますでしょうか。もしなければ、今の古巻委員のご意見を、一つのベースとして議論を進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。</p> <p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
区 長	<p>ありがとうございます。それでは、そのような形で進めます。私自身も古巻委員のご意見のとおりだと思っております。前回のものから、時代に合わせて変えるものは変えなければいけないのですけれども、根底に流れているものは変えてはいけません。変えずに残した方がいいというものもたくさんあると思っています。</p> <p>そうしますと、現行の大綱の基本目標である「家庭と地域と学校の協働による総合的人間教育」、また基本方針である「家庭教育の充実」「地域での教育活動の実践」「学校教育の充実」の三つの柱は、新たな大綱でも引き続き中心にしていくという形で議論を進めていければと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
区 長	<p>そうしますと、現行の大綱をベースにしたほうが、議論が進めやすいのではないかと思いますので、まず三つの柱の一つ目、4ページをお開きいただいてもよろしいでしょうか。</p>
蓮 沼 委 員	<p>一つ、三つの柱の前に、私はこの基本目標について、少し考えというか感想があるのですけれども、よろしいでしょうか。</p> <p>私は、本大綱の基本目標になっております「家庭・地域・学校の協働による総合的人間教育」という文言が、大変素晴らしいと考えております。なぜなら、室町時代の末に活躍した毛利元就の有名な言葉、三本の矢の教えにありますように、家庭・地域・学校がそれぞればらばらですと、力が弱くてそれほど成果が期待できません。三者が力を合わせることによって、三本の矢のごとく、より強固な力を発揮できるようになると、そのように考えています。</p> <p>今年、ラグビーワールドカップ、日本中で盛り上がったのですけれども、日本代表の結束力を示す「ワンチーム」という言葉が、流行語大賞になった</p>

区 長	<p>りもしております。同じように結束、一つになるということ象徴しているようなことで、この目標がとても素晴らしいなと感じ、一言だけお話しさせていただきました。</p> <p>ありがとうございます。他の委員さん、よろしいでしょうか。それでは、三本の矢となるように、前提としては、この三つの柱ということで、皆様、よろしいでしょうか。</p> <p>〔「はい」と呼ぶ者あり〕</p>
区 長	<p>それでは4ページの「家庭教育の充実」からご意見をいただければと思っております。先ほどもお話ししたとおり、ベースとして残したほうがいい部分、変えたほうがいい部分も含めてご意見をいただけますでしょうか。</p>
石井委員	<p>私自身は、この6人のメンバーの中で、前回、総合教育会議に出席もいたしまして、教育大綱の策定の現場にかかわっていたものでありまして、そういった意味合いで、もろ手を挙げて「いいですね」という自画自賛的なことは、なかなか性格的にもできにくいところはあるのですけれども、やはり、よいものはよいな、と感じております。</p> <p>「家庭教育の充実」についてなのですが、特に今後の方向性の2番目、1番目にもかかわってくることだと思いますが、「親の学びや育ちを支援する」という、このポイントはとても大事だと感じております。といいますのは、妊娠をしまして月日が満ちれば、子どもは生まれてまいります。子どもが生まれてくれば、自動的に親も親として認識されるということになります。では、その人物が本当の意味での親かといいますと、そうでない場合のほうが圧倒的に多いのではと感じます。それは、親になるのが初めての方が多いわけですので、いたし方ないこととも思っております。大事なことは、子どもが育つと同じぐらいのスピードで、望ましくは、子どもが育つよりも早く、親が育つことができれば、つまり、親が精神的に成熟していくということですが、そういうことができますれば、親は真の意味で親として子どもに対してよい教育をし続けることができるというふうに考えております。</p> <p>一方で、現在の問題といたしましては、親がそのように成熟できない、時として子どもより遅いスピードで成熟している、こんなことがあるのではと感じております。親の精神的な未成熟というのは、子どもの虐待につながってしまう可能性もありますので、しっかり考えておくべき点ではないかと思</p>

	<p>っております。</p> <p>これには、人間が長寿命であるということに大きなポイントがあると思っております。日本の家庭構造として、精神的に成熟したおじいさん、おばあさんというのが、自分の二世代あとの人間、すなわち孫の面倒を見てきたということで、精神的にも情緒的にも安定した人格形成というものが、孫の中になされてきたというふうに思っております。昔、大家族で子育てをしたというのは、とても理にかなったことだと感じております。ただ、そういう大家族というのを、今再現しようというのは無理な話でございます。</p> <p>一方で、江戸川区が行っている「地域での教育」、家庭に加えて、地域全体で将来の宝である子どもを育てるという取組みはとてもよいと思います。さらによい点は、地域で見ていくというのは、子どもだけではなくて、親の成長を促すことにもなるということだと思っております。</p> <p>こうした意味合いで、今後の方向性の2番目、「親の学びや育ち」というのは、文言を結果として逆にするだけには見えてしまうのですが、広い意味でそういうバックグラウンドがあるということをご理解いただいた上で、「親の育ちや学び」とするのがよいように思います。</p> <p>全体としては、1番目も2番目も含めて、こういう方向性を掲げて、さらには具体性を持って、もろもろ進めていただければと存じます。</p> <p>以上です。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。他の委員さん、いかがでしょうか。</p>
古 巻 委 員	<p>今の石井先生の話、大変私も共感いたします。まさにおっしゃるとおりで、人生最初の教師が、そのまま人生最高の教師とは必ずしも言えないと思います。親が孤立をすると、どうしても自分自身の殻に閉じこもってしまいがちだということもございますので、これは私が常々思っていることですがけれども、大事なのは、学校のPTAだけではなくて、地域における親同士のコミュニケーションというかネットワークではないかと。お互いをそこで刺激し合いながら、「ああ、家はこれが足りなかったのだ。ああ、これはもっと学ぶべきことがあったのだ」というようなことを、親自身が自然な形でもって学ぶことができるネットワーク、そういうものが必要ではないかと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。そうしますと、今の古巻委員さんのご意見ですと、</p>

	<p>今後の方向性の二つ目の中に、「親同士のネットワーク」という言葉を入れ込んでいくような形ということでしょうか。</p>
古 巻 委 員	<p>そうですね。孤立をしないということです。</p>
区 長	<p>孤立をしない。わかりました。 それでは、他にご意見、ございますでしょうか。</p>
庭 野 委 員	<p>私も今、石井先生や古巻先生のお話をお聞きしまして、ちょっと思い出したことがあるのですが、社会の構造ということを考えてみますと、昭和の時代は、先ほどお話があったように、三世代の家族が多かったかと思えます。それから、平成になりまして、主な意見の三つ目に書かれておりますように、核家族やひとり親家庭が多くなったと思うのです。今、令和の時代になりまして、家庭としては共働き、これがごく普通になってきているのではないかと思います。平成の時代にももちろん共働きの家庭は多く存在したわけですが、これからの時代は、それが本当に普通になっていくような時代ではないかなと考えております。それは、より一層豊かな生活を享受したいとか、子どもに十分な環境を備えてあげたいというような背景があるのだと思いますが、そういった地域社会の構造になってまいりますから、だんだん大人が目が子どもから離れていくことになってくると思うのです。</p> <p>ですから、先ほどもお話がございましたけれども、親自身がさらに自分を磨いていくということが、もっともっと大切になってくるであろうし、さらには、子ども自身も、そういった環境にあるということを十分意識しながら生活をしていくということが、また大切になってくるのではないかと考えております。</p> <p>ここの主な意見の三つ目のところに、ぜひ、そういった社会構造のことをちょっと入れていただけるとありがたいなと思って読ませていただきました。</p> <p>以上です。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。他にはご意見いかがですか。</p>
蓮 沼 委 員	<p>私は、主な意見の1番目、2番目、3番目、4番目にかかわってくるかと思うのですが、やはり昔から言われていますように、「親の背を見て子は育つ」ということです。やはり、親の生き方や生きる姿が子どもの人格形</p>

成に大きな影響を与えていると、そのように思っております。主な意見の一つ目にも「人格形成の場」と書いてございます。

そのためにも、私は、親はもっと子どもに寄り添い、我が子を知りべきではないかと考えています。ですから、もっと我が子に心を砕いてほしいと願っています。親が忙しいことを理由にして子どもに目を向けないでいると、子どもというのはなかなか敏感なので、親が自分に向き合ってくれていないというのを敏感にキャッチして、親と距離を置くような関係になってしまいます。そうならないためにも、できる限り家庭内でのコミュニケーションを大事にして、親子で一緒に運動したりとか、子どもがスポーツ、塾、文化的なサークル、習い事などをしていれば、それを応援したり、あるいは、江戸川区でとても盛んな地域行事と一緒に参加するというような姿勢が望まれると思います。よく家庭での会話がなくなるとか言われていますけれども、いろいろな活動をとることで、家庭での会話が弾みます。その中で、お父さんやお母さんが、自分の子どもがこんなところで頑張っている、努力しているというところをほめてあげたりすると、やはり家族のきずなも深まって、結果的には親子関係も好ましいものに築かれていくのではないかなと思っています。学校だと、ちょっと勉強が苦手で余りパツとしないなというようなお子さんでも、学校の当番活動とか係の仕事を一生懸命やるとか、あるいは、外に出て、野球少年なんかが一生涯懸命に練習に耐えて頑張っているとか、挨拶がいいとか、家庭以外の子どものいろいろな面を見ることによって、子どものよさを発見したり、「家の子どもも、まんざらじゃないな」とかほめたりすると、親子の関係がよくなって、子どもも親を慕うし、親も子どものことを見て、いい関係になっていくのかなと思います。そういう家庭基盤ができてくると、非行や不登校などの問題も解決していくのではないかと考えています。

区 長 ありがとうございます。

古 巻 委 員 今の蓮沼委員のお話は、私も大賛成です。コミュニケーションという話がありました。私が考えております家庭教育の根っこの部分で大事なことは、やはりコミュニケーションだと思います。それが一番ベースになれば、家庭教育というものも、なかなか充実しがたいのではないかなと思うのです。と申しますのは、卑近な例でいいますと、例えば、電車で若いお母さんが乳母車に子どもさんを乗せている。そうしますと、子どもはもう落ちつかないで、あちこち見ながらしゃべっているのですけれども、そういうことを全くと言

	<p>っていいくらい顧みないで、若いお母さんはスマホをずっといじっている。子どもが小さなときから、母と子の対話というものが、どこか欠如しているというか。コミュニケーションという言葉が日本語で私流に言いかえるならば、「にぎやかな対話」です。何も意識しなくても、家庭の中で叱ったりほめたり、にぎやかに話をするだけで、それがベースになって、いろいろな形になって花が咲いてくるのではないかと私は思います。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。</p>
千葉教育長	<p>一番最後のところに、貧困というテーマが一つあります。この大綱ができたのが28年3月ということで、3年前ですけれども、ちょうどそのころは、「子どもの貧困」という言葉が新聞やテレビ等で話題になり、ちょっとした社会問題になって、それは今も引き続いていると思います。</p> <p>そういった中で、じゃあ江戸川区ではどうだろうか、ということがあって、大綱にはこういう形で取り上げております。その後、区の中でも全庁的にどういったことができるのかということで、各部横断的な施策をやっていこうという動きがありました。まずは学習支援だろうということで、今、共育プラザでも「1655勉強カフェ」というのをやっておりますし、それ以外にも、ひとり親について、学習支援という施策も行っています。「1655勉強カフェ」でいえば、もう3年たって、それまで高校受験というのに余り気持ちが悪かった子どもが、教えてくれる先生たちとの会話を通して「ぜひ、僕は大学に行ってみたい。その前には、じゃあ高校にも行かなきゃいけない」という、前向きな気持ちを持つことができ、高校にもほとんど100%の子どもが合格できたと聞いています。そういった活動も本当に効果があるなと思っています。</p> <p>大綱の中でも、主な意見のほうでは、「子どもの健やかな成長を支えるためにも、取組みを強化する必要がある」。今後の方向性のほうでも、「あらゆる取組みを推進していく」。ちょうどこれは、これから取組みを進めていこうという段階だったものですから、こういう書き方をしております。</p> <p>それから3年たって、いろいろ効果も出てきておりますので、今現在としては、その効果を検証しながら、必要な事業、さらに上に乗せる、横に出していく事業をよくよく考えながら進めていく、そういったステージに入ってきているかなとも思います。3年前なので、書きぶりが少し今と違うかなと思ったものですから、そういった視点も入れながら、もう一回見直してはと思って発言しました。</p>

区 長	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。家庭教育の部分、それぞれの委員からご意見を頂戴しましたけれども、ほかにございますか。</p>
庭 野 委 員	<p>今後の方向性の最後に、「全ての子どもが」とありますが、外国籍の子どもさんたちも、江戸川区に多くなってまいりました。「全ての子ども」の中には、もちろんそういった外国籍の子どもたちのことも入っていると思いますけれども、3年前の状況とは、またずっと変わってきていると思います。多様な価値観を互いに認め合うということが盛んに言われておりまして、多様性と共通性ではございませんけれども、共通性の中にしっかりと多様性を生かしていくという視点をきちんと持つということが、行政としては大事なのではないかなと思っております。</p> <p>文言としては、どれをどういうふうに変えてということはないのですけれども、そういう意識をしっかりと持っていくということが大切なのではないかなと思っております。</p> <p>以上です。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。そこは私自身も感じたところでありまして、例えば、家庭教育が大事だということですが、例えば災害や交通事故など、様々な事情により家庭で暮らすことのできないお子さんもいると思います。では、そういったお子さんの家庭の部分はどうするのか、ということは課題になってくると思っております。そういった部分は、まさに行政が担っていかなければいけない部分だと思っております。</p> <p>江戸川区では、4月から児童相談所、一時保護所が開所します。家庭教育に代わる部分という点で、子ども家庭部長、そういう部分を行政で担わなければいけないというところについては、どういうふうに思われますか。</p>
松尾子ども家庭部長	<p>今、委員の皆様からお話があったことを、しごく私も同感をしているところであります。確かに、虐待も含めて、今、区長のご指摘があったようなケースも含めて、残念ながら家庭で暮らすことのできない子ども、家庭に戻れない子どもがいることは、厳然とした事実であります。そこはやはり、社会的養育をしていかなければならないわけでありましてけれども、今までは、昔でいうと、タイガーマスクなんかがよく思い出されてございますが、孤児院というようなイメージのところでありましてけれども、ここは児童養護施設と</p>

	<p>して、より家庭的な環境をその子どもにいかにかとすることが、一つの方向性だろうと思っています。そして、さらに江戸川区としては、もっともっと家庭に近い環境、いわゆる里親さんの環境を、この江戸川の中にもっともっと広めていかなければいけない。今、残念ながら、東京都からこれから引き継いでまいりますけれども、必要とする子どもの1割にも満たないような状況になっているのが、里親の現状でありますので、これを増やしていかなければいけないのだろうなと思っていますところであります。</p>
<p>区 長</p>	<p>ありがとうございます。庭野委員のおっしゃった「全ての子どもが」という部分で、多様性もそうですし、今話題に出たようなことも含めて考えていければ、この「家庭教育の充実」というところが、さらに生きてくるのではないかと思っていますところで。</p> <p>ここの部分について、ご意見よろしいでしょうか。よろしければ、今それぞれの委員からお出しいただきました意見をもとに、このページをまた改めて作っていただければと思っております。</p> <p>続きまして、5ページ。二つ目の基本目標「地域での教育活動の実践」についてです。</p> <p>ここについてのご意見を頂戴できればと思っております。</p>
<p>石 井 委 員</p>	<p>基本方針の2「地域での教育活動の実践」なのですけれども、ご覧になっていただければわかりますように、現大綱では、地域でもって子どもたちを教育するというような、言ってみれば、外から内に向かっての見方、捉え方だったと感じております。</p> <p>一方で、現代の社会状況を考えてみますと、国際性も豊かになってきておりますし、文化的にもいろいろな多様性が出てきております。そうした意味合いにおきましては、子どもたちが地域に出ているいろいろな活動を行うことで、地域を通して国際性や、文化的な多様性を積極的に子どもたち自身が学んでいけるのだという視点、そういう場を地域が供給できるのだという視点、言ってみれば、内側から外側に向かっていくという視点も、大事なのではないかと考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>区 長</p>	<p>ありがとうございます。国際化、多様性にやはりつながってくるということですね。</p>

古 巻 委 員	<p>今の点に関してです。私も、今、石井委員が言われたことにつきましては賛成でございますが、なお、私が感じていることを言わせていただければ、江戸川区歌についてです。昭和40年にでき上がって、もう50年を経過している大変すばらしい歌で、式典などの場面で、特に学校では、子どもたちが本当に元気よく歌っています。私も初めてこの歌を聞いたときに、大変元気の出る歌だな、歌詞の内容もすばらしいなと思いました。</p> <p>今、石井委員がおっしゃった国際的なこと、あるいは社会的な広がりというようなことは、一つの理想の姿として、この江戸川の区歌におさめられているような気がしてならないのです。ですからこの歌を、皆様ももっともって歌ってもいいのではないかと考えています。そういう意識を、自然な形で肌にしみ込んでいけるように、音楽や楽曲を通して教える。ただ単に歌わされているというのではなくして、この歌が好きだというような環境を、子どもたちに作っていくことも大事なのかなということを感じます。</p> <p>以上でございます。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p>
蓮 沼 委 員	<p>主な意見の2番目に、「すくすくスクール」とか「チャレンジ・ザ・ドリーム」という言葉が具体例として紹介されているわけですがけれども、同じように5番目の意見に「高齢化の進行は、元気な高齢者が増えることを意味する。地域の中で子どもたちと深くかかわっていただき」云々というところがあります。できれば、この箇所にも続けて具体的な例を挙げてはいかがかなと思っております。例えば、中学校での部活動の外部指導員とか、ふれあい訪問員、中学生のジュニア訪問員の受け入れ、小学校の登下校の見守り活動などです。実際に、現在、本区で活躍いただいている事例を紹介するとよいのかなと考えています。それらを入れることでイメージが膨らんで、大綱を読まれた方も含めて、自分も協力してみようという熟年者の方が増えていくのではないかと考えています。</p> <p>昨年度、実際に私が勤務していた中学校でも、80歳を超える方にテニス部、そして喜寿を迎えた方に陸上部の外部指導員として、子どもたちの体力、技術、その向上に向けてご尽力いただきました。結果的に区で優勝したり、陸上では全国大会に出場したり、すごく貢献していただいています。さらにうれしいことは、それが縁で学校行事、卒業式ですとか運動会ですとかに子どもたちの様子を見に来てくれるということです。側面から学校を支えていただいておりますので、本当にありがたいなと思っています。元気のあるこ</p>

<p>教 育 長</p>	<p>ういった熟年の方々に学校にどんどんかかわっていただいている、具体的にこういう活動をしているのだというのを、できればここに網羅していただければありがたいなと、そのように思っているところです。</p> <p>以上です。</p>
<p>蓮 沼 委 員</p>	<p>喜寿ですか。</p>
<p>蓮 沼 委 員</p>	<p>喜寿。実際に、今でも生徒と一緒に走っているのです。誰が走っているのかなと思ったら、その77歳の方ですよ。私なんかは、ここへ来て、4階まで階段上がるのが精いっぱいなのですけれども。本当にうらやましいなと。</p>
<p>区 長</p>	<p>地域での取組みといえば、先月、平井の小学校で、朝ご飯を地域の方と一緒に作って食べるという取組みがありました。朝ご飯というか、おにぎりですね。地域の皆様と子どもたちが一緒になって作って、役割分担をしながら一緒に食べて、一緒に後片付するという取組みです。そういう中で、地域とのつながりが出てきますし、やはり高齢者の方って、自分がずっとやってきていますから、教え方が非常にうまいですし、子どもたちも目を輝かせて聞いていますよね。ただ食べるだけとか作るだけじゃなくて、一緒に作って、一緒に分かち合う、それが食育にもつながっておりますし、世代間交流にもつながります。またいざとなれば学校は避難場所にもなりますので、災害時でも、顔を知っている関係ができていれば、より協力して避難所運営などにあたりやすくなります。そういったことも、江戸川区の学校で今実践しています。地域の方を巻き込んでいくというのは大切だと思います。ご意見、ありがとうございました。</p>
<p>蓮 沼 委 員</p>	<p>よろしいですか。それに関連して。私もその学校の校長さんにちょっと話を聞きました。やはり、子どもたちの目つきも変わってきて、今まで作ってもらっただけだったおにぎりを自分たちの手で作るようになった。しかも、中身をどんなものにしようかとお母さんと話したりとか、実際に買い物に行ったりということで、最終的には自立に向けての動きにつながっています。その辺がすばらしいなと思っています。そういうところで地域の民生委員さんや町会の方と交流を深めることによって、地域でも挨拶が生まれます。お互いに顔を知っているということはいいと思うのですね。それこそ、物騒な事件とかあるじゃないですか。そういったときも、あの子はさっき一人でいた</p>

	<p>から、と声をかけてくださったりすることによって未然防止にもなるし、大変すばらしい取組みだなと思っています。できれば江戸川区でもそういったものを普及させていただきたい。子ども食堂とかも一生懸命やっていただいておりますけれども、朝ごはんの取組みも江戸川区で広げていこうというだけでもいいかなと、そのように思っています。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。</p>
石 井 委 員	<p>江戸川区では、たしか成長支援事業というのを積極的にやられていて、学習支援ですとか食の支援、そういうことを積極的にやっていると私自身も学んでおります。</p> <p>そうしたことを、果たしてここに書き込むのがいいのかどうかは別といたしましても、積極的にそういうことをやっているのだという、区としてのスタンスをしっかりと表明されることも大事なかなと感じております。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。</p>
庭 野 委 員	<p>先ほど、古巻委員さんがおっしゃったのですけれども、江戸川区歌のことです。30年以上前のことを思い出しているのですけれども、10年間、やはり、私も学校の先生方と一緒に、入学式のときからこの江戸川区歌を歌ったなということを思い出しました。当時は1番から3番までであったのですけれども、4番が加えられました。この大綱で言うと、今後の方向性の下の二つに当たってくるのではないかなと思うのですが、「子どもたちが地域を愛する心を育む」とか、「地域への愛着から」というようなところを子どもたちがしっかりと意識できるようになっていると思います。顕在的には意識していないかもしれないのですけれども、潜在的に、腹の底にこの歌の精神が宿っていて、いろいろな場面で「あ、これはそうかな」と結びつける源になっているのではないかなということを感じました。</p> <p>私自身も、ちょっと江戸川区を離れておりましたけれども、江戸川区歌を改めて学校の場でお聞きしまして、「ああ、やはりそういうところが節々にあるな」ということを感じた次第であります。</p> <p>また、別のことなのですが、主な意見の上から五つ目に、「高齢化の進行は、元気な熟年者が増えることも意味する」とありますけれども、まさしく、今、3年前の状況よりも元気な熟年者、とても多くなっていると思います。先ほどの80歳の方のお話ではございませんけれども、アクティブシ</p>

	<p>ニアというのでしょうか、自分からアクティブに活動されるシニアの方がとても多くて、多分、いろいろなまちで活躍をされているのではないかなと思います。次のところの「学校教育の充実」にもかかわることではございますけれども、学校にそういったアクティブシニアの方々がどんどん入ってくるような仕組みができていくといいなと、考えています。</p> <p>例えば、これは学校からお願いされる、これは区からお願いされる、これは町会や自治会からお願いされるというような、いろいろな方向性があると思うのですけれども、そういったものの横のつながりが、はっきり、すっきりとしていくような、何かスマートなシステムが構築されていくと、さらに動きやすいアクティブシニアが増えてくるのではないかと考えたところで</p> <p>す。</p> <p>以上です。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。江戸川区の中では、老人クラブを「くすのきクラブ」というふうに言いますが、クラブ数は200ありまして、加入者数は1万7,000人、これは23区で一番多い数字です。その中で、幾つか柱を挙げているのですけれども、地域貢献というのも一つの柱にして、学校によっては見守りをやってくださっているようなところもあります。今のお話のように、マッチングとかつながりの部分というのは、今まで確かに欠けていた部分もあったのではないかと思いますので、そういったところも積極的に、両方が前向きになってくれれば、うまく回ってくるのかなと思っています。登校時も下校時も、地域にいてくれるのは誰かと考えていきますと、おのずとそういったところに話はいくのではないかなとも思います。貴重な意見、ありがとうございます。</p>
古 巻 委 員	<p>今、庭野委員と区長のお話、また先ほどの蓮沼委員のお話なんかもそうなのですけれども、高齢者がいろいろな形でもって元気にかかわり合ってくれているというのは、私、いわゆる相乗効果だと思うのです。一方では、子どもたちの好奇心に火をつけていく。もう一方では、高齢者が、教えること、子どもたちと一緒にやっていくことについての生きがいを持っていく。この二つがうまくぶつかり合って、相乗効果が出てくるのではないかなと思います。</p> <p>私は小さいときは下町に育ちましたが、下町では近所に、結構うるさくて、いつもいつも叱る、おせっかいなおやじがいました。当時は「石灰岩」というふうに言って、石灰岩はlime rockだから、「ライムロック」と言</p>

<p>区 長</p> <p>石 井 委 員</p>	<p>いながらからかっていたことがありました。私は、個人的にはおせっかいには三つのKがあるのだと言っています。「構う」「からかう」「気にかける」の三つです。やはり、下町というのは構う、あるいは、からかうといっても、おちよくるのではなくして、お互いがコミュニケーションをとる。それから、何かあると、どうなのかなと気にかける。この三つがすごく大事だと思うのですね。</p> <p>そういう中で私は育ってきましたので、やはり今の時代というのは、どちらかという、割と近所同士のつき合いも、なかなか少のうございますし、それから、子どもたちが外で遊ばなくなったというところもあります。今おっしゃったように、元気なお年寄りもたくさんいらっしゃるのですが、なかなか構う、からかう、気にかけることができず、ちょっと怒ったりなんかすると親がうるさいから、なかなか黙って見過ごしてしまうなんてこともあります。いい意味でのおせっかいはやはり必要で、高齢者の生きがいにも通じてくるということで、これすなわち、地域教育については、大変プラスになることではないかなと思います。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございます。いい意味でのおせっかいということですね。</p> <p>基本方針2の文章の中では、地域として具体例が挙がっているものとしたしましては、主な意見の1番目、町会、自治会というのがございます。主な意見の2番目、学校応援団ということもございます。加えて、ちょっと手前みそになってしまうところはあるのですが、PTAということも、ぜひ認識していただければなと思っております。といいますのは、自分自身のことになってしまい恐縮なのですが、私自身、25で結婚いたしまして、江戸川区に住み始めて、40になって子どもができました。その15年間、江戸川区の中で知り合いになった人は0か1人だと思います。一方で、子どもが生まれて幼稚園に行く、小学校に行く、中学校に行く、その中では、毎年毎年、10人、20人という知り合いが増えました。そんな中で、小学校でPTA会長をやり、中学校でPTA会長をやりました。区立の小学校、中学校です。高校は都立で、それは区外だったのですけれども、そこでも結果的にPTA会長をやり、何かPTA会長っておもしろいなと、そんなことを感じております。大学ではないのかな、なんてあほなことも考えておるのですけれども。それは冗談といたしまして。</p> <p>そういうことでいきますと、私のようなタイプの人間、賃貸住宅に住んで</p>
---------------------------	--

	<p>いて、なかなか町会にも出るチャンスがない、行けば、もちろんウェルカムはしていただきますけれども、両方共働きというような人間を、積極的にうまくすすべてくれるのがPTAかなと感じております。広い意味で人材をすくいとる、そんな仕組みであるPTAを、大綱の中に入れ込んでいただけないかなと感じております。</p>
<p>区長</p>	<p>ありがとうございます。PTAの力はすごいなと思います。数からいえば、今、江戸川区の公立の小・中学校に5万人の子どもがいます。23区で一番多いのですけれども、例えば、その子どもの家庭にもいろいろな家族構成があります。例えば2人いるとします。親でも兄弟でもいいのです。そうすると、もうそれだけで学校にかかわる方が15万人になります。するとそれは江戸川区の5人に1人ということになります。例えば、家に帰って4人家族だとすれば、もう江戸川区民の4人に一人は学校にかかわっているという形になるのです。やはり、PTAとのかかわりが、密接に江戸川区とのかかわりになるということで、しかも、それが毎年入れかわっているということを考えれば、PTAの力というのは、大変なことがあるのではないかと考えています。今のご意見も、ごもっともだなというふうに聞かせていただきました。ありがとうございます。</p> <p>ほかに、この地域の部分でご意見ございますでしょうか。よろしいですか。それぞれ委員から貴重なご意見をいただきましたので、今のご意見をこの文章の中に表していきます。</p> <p>では、三つの基本目標の最後になります。「学校教育の充実」について、こちらのほうもご意見をいただければというふうに思っております。</p>
<p>石井委員</p>	<p>「学校教育の充実」につきましては、主な意見の上から5番目について、ちょっとひっかかる部分がありますので、私の意見を披露させていただければと思います。</p> <p>しっかりと丁寧に読めば、そうではないという読み方もできるのですけれども、うがった読み方をいたしますと、「プロとしての教育力を発揮できる環境をつくる」という部分が、「教育力を身につけた立派な先生方がいらっしゃって、そうした先生方が思う存分力を発揮できるような環境を整えますよ」というような、非常に嫌な読み取り方もできてしまうように感じております。実際は、そうではないということも、私自身はすごく強く認識しております。江戸川区では新任の先生方、また経験が浅い先生方、非常に多くいらっ</p>

	<p>しゃる中で、経験のある先生方がちゃんとサポートしてくださるシステム、あるいは体制があるということが、ちゃんとわかっております。</p> <p>書きぶりとしたしまして、江戸川区では新任の先生、経験の浅い先生方に対しても、これからもしっかりサポートを続けますよ、というような決意表明のような事柄も入れ込んでいただけますと、よりよいかと感じております。</p> <p>以上です。</p>
区 長	指導室長、実態としては江戸川区、若い先生が非常に多いのですよね。
近津指導室長	はい。ここ数年でいえば、例年、200名前後の初任者、新採の教員を採用しているという状況でございます。
区 長	この間、周年行事で行ったところ、30周年だったのですけれども、半分が周年より若い、要は平成生まれでした。ということは、20代ということですよ。そういう学校もあるわけです。
指 導 室 長	実際には、採用後、1校目の経験しかないという教員が、その大半を占めるという学校もございます。
区 長	そういうふうに考えると、今の石井委員の意見が、非常に重要なのではないかとこのところにつながってくると思います。ありがとうございます。
古 巻 委 員	<p>今の石井委員のお話に関連してなのですけれども、今、引用されました「教職員の孤立を防ぐ」云々、また、「プロとしての教育力」云々ということに関して、私は常々思っているのですが、子どもたち、あるいは児童にとって身近な教師というのは、ある意味では、一番の教育環境ではないかと思えます。</p> <p>「子どもたちにとって、教師が最大の教育環境である」という言い方は、昔からよく言われていることでもございます。ところが、割と言いならされた、聞きなれた言葉で、ずっと右から左へ流されてしまっているのではないかと、時として感じるがございます。ですから、できればそうした基本を、もう一度ここで改めて見ていくことが必要ではないかと思えます。教育のあり方というのは大変大事です。福沢諭吉の書いた「学問のすゝめ」と同じ明治の初期に出版された「西国立志編」という本があります。中村正直さんという方が、イギリスの哲学者であるサミュエル・スマイルズの書いたものを翻訳</p>

	<p>した本ですが、これを新しく翻訳しなおした「自助論」を最近読みました。その中に、国の政治は国民一人ひとりのありようが鏡になっているのだというくだりがありました。どういうことかと言いますと、その国の国民一人ひとりが映し出した鏡、それが国の政治なのだと言っているわけです。「国の政治は」というところを、「国の教育は」に置きかえて読んでみると、「国の教育は、その国の国民一人ひとりを映し出した鏡である」と受け取ることができます。そう考えると、教師の使命、役割というのは、大変に重要なものではないかと思えます。</p> <p>そういう意味で、話はちょっと戻りますけれども、教師は大きな教育環境になっていますので、教師自身がしっかりと自分自身を磨いていくことが、非常に大事になってくるのではないかと思えます。ニュースで報道される、教師のお金の問題、わいせつ的な問題、あるいは暴力の問題、そういうことを考えますと、教師自身がしっかりとした人間性を磨いていくことが大事なのではないかと思いました。</p> <p>以上でございます。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。今のご意見に関連し、蓮沼委員が、直近までその現場にまさにいらっしゃいました。</p>
蓮 沼 委 員	<p>「学校教育の充実」には主な意見として六つ、そして今後の方向性として四つ掲載されているわけですがけれども、共通して言えることは、これらを実現するために最も大切なことは何かと考えますと、現場の長である校長の姿勢と、行動力ではないかと私は考えています。私は日ごろより、やる気のある校長がやる気のある教師を育て、やる気のある教師が、児童・生徒の心にやる気の灯をともしということ、持論として申し上げています。</p> <p>それはさておき、主な意見の4番目は「教職員の負担が増している」で終わっているわけですがけれども、やはり現在、国を挙げて取り組んでいます働き方改革、それに触れるといいかなと考えています。</p> <p>それと、現在、本区では既に、教職員の負担が増している状況を解消するために、さまざまな施策を実行していただいております。それは誇れるべきものだと思うのですが、一生懸命やっただけでおります働き方改革の推進と並行して、学校教育を左右する教職員の資質・能力の向上を図ることも必要だと思います。教師に求められる指導力、授業力、人間力を高めるために、きめの細かい指導、支援、研修体制をやっていただきたいなと考えています。</p>

	<p>昔から、「教育は人なり」と言われているわけですがけれども、人間的魅力のある、人間力の高い教師は、子どもたちだけではなくて、保護者や地域から慕われ、人間関係、信頼関係を築くことができます。学校教育で何が大事かという、私はこの信頼関係だと思っております。ぜひ、我が江戸川区に、子どもたちのよさや可能性を引き出し、最大限伸ばすことのできる人間的魅力のある教師を育てていかななくてはならないと、そのように強く思っているところです。やはり、教師との出会いというのは、その子どもにとってとても大きなものですし、子どもや保護者は担任を選べないと言いますけれども、出会う先生によって、極端な言い方をすると、運命が変わるといようなこともあります。残念ながら、神戸でニュースになったような教師に教わったのでは大変なことになります。江戸川区で絶対にそんなことをさせてはいけないので、しっかりと子どもの気持ちに寄り添って行動ができ、学力、体力、道徳心、そういったものを伸ばしてくれる教師を育てていきたいと思っております。そして微力ながら、私もかかわらせていただきたいと、そのように考えているところです。</p> <p>以上です。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。確かに自分自身も高めていかなければいけないと思うのですがけれども、一方で、中学校の教員の3人に2人は過労死ラインを超えてしまっているという数字もありました。今までは、やりたくてもできないのだという環境があったというのも事実かなと思っています。</p> <p>そこで、お話のありました働き方改革を、今、教育委員会で一生懸命進めてくれているところだと思っておりますので、それとペアの話になってくるかと思っております。今どれだけ教員の負担があるかということも感じながら、一生懸命そういったところを進めていかなければいけないと思っておりました。ありがとうございます。</p>
蓮 沼 委 員	<p>それに関しては、区長が昨年、教育長だったのですがけれども、教育長に就任のときから、第一声として働き方改革が区にとって一番大きな課題だということで掲げていただきました。現場だけでなく、トップの方がそういったことを思ってくださいというのはありがたいし、あとはそれを着実に実行して、先生方が「江戸川区で働いてよかった」と思える環境を作っていただきたいと思うところです。</p>
区 長	<p>結局、それが回り回って、子どもに返ってくるというのが一番だと思って</p>

庭野委員	<p>いますので、そういった方向の働き方改革であったり、これからの教育の環境の整備ということがあってしかるべきかなと思っています。</p> <p>私も働き方改革のことを申し上げようと思っていましたので、今のことにかかわってお話しさせていただきたいと思います。</p> <p>基本方針は、3年前ということで、当然ながら働き方改革という言葉が出ていません。今日のものにするには、やはり必要だなと思っております。特に主な意見の4番の「教職員の負担が増している」や、5番目の「プロとしての教育力を発揮できる環境をつくっていく」に関連して、そのためには、学校に入っただけの方を増やしていかないと、先生方の負担というのは、なかなかなくなっていくと思うのです。</p> <p>まずは、教員免許がなくてもできる仕事、これにどんどんまちの方が入っていけるといいなと思います。もう既に、図書館のボランティアであるとか、あるいは、チャレンジ・ザ・ドリームで先生になってくださる方とか、たくさんの方が行われていると思いますけれども、もっともっと全ての学校に入っていけるといいと思います。給食指導なども、教員の指導になっておりますけれども、まちの人が給食を配ったり、子どもと一緒にお話をしながら食べたりすれば、その人の人柄もどんどん発揮されて、子どもたちも学んでいくことも多いと思います。具体例を考えていくと、学校にはまだまだ入っていける余地がたくさんあると思うのです。そういったところをもっと探して、まちの人たちに協力をお願いすることも大事なのではないかと考えております。</p> <p>それから、もちろん教員免許を持った方で、現在、教員をやっていない人に学校の中に入ってきていただいて、その力を発揮していただくということも大切だなと考えております。</p> <p>もう一つよろしいでしょうか。主な意見の一番下なのですけれども、オリンピック・パラリンピックのことが書かれております。当然、来年いっぱいオリンピック・パラリンピックは終わってしまうことなので、この後のことを考えておかないといけないと思いました。オリンピック・パラリンピックをきっかけに、子どもだけではなくて区民の皆様方、スポーツへの関心や意欲が高まってくると思います。これまでもそうですけれども、これをきっかけに国際大会もたくさん行われていくと思うのです。江戸川区にもカヌーの競技場ができますけれども、これからたくさん使われていくことになると思います。そういう今後のことも考えた表現の仕方をすると、新しい教育大綱になっていくのではないかと考えました。</p>
------	---

<p>区 長</p>	<p>子どもの健全育成のためにいろいろな角度から、ぜひ、やっていただきたいと思っております。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。冒頭のお話は、地域の方に学校にもっと入ってもらって、学校と地域が分断するのではなく、もっと深くかかわっていくというお話かと思えます。今、そういった流れもあると思うのですが、事務局のほうで何かありますか。</p>
<p>柴田教育推進 課長事務取扱 教育委員会事 務局参事</p>	<p>学校における働き方改革につきましては、今、区長もおっしゃったとおり、最終的には子どもたちのために、先生方の長時間を是正していきましようという方針です。そのための方策といたしまして、今、委員さんおっしゃったように、教員の方でなくてもできる仕事を、他の役割の人で担っていきましようという考え方を持って、例えば、事務職員の職務規定を設けたり、それから外部の方で言えば、スクールサポートスタッフという方が、各学校に1名、既に本年度中にはフルタイムで入っております。この方々は教員免許を持っておりませんが、先生方の業務のお手伝いをする役割を担っていただいています。また部活動でも、外部の指導員ということで、こちらは非常勤という形で引率もしていただいています。またボランティアの部活動指導員は今までもいらっしゃいましたけれども、その枠を広げて、さらにご参加をいただいています。また、教員免許を持っている退職した副校長といった教員も、学校の経営支援という形で今も入っております。このような形で、教員でなければできない仕事以外の仕事は、他の方々が担っていただくということで進めさせていただいているところでございます。もちろん、それ以外にも学校応援団の方ですとか、そういう方々にもたくさんご参加いただいて、学校にご協力をいただいているという現状でございます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>区 長</p>	<p>そういった幾つかの取組みをする中で、もっともっと先生が子どもたちと相對する、正面からぶつかっていく時間を増やしていければ、なおよいのではないかとと思っております。今のご意見、ありがとうございます。</p>
<p>石 井 委 員</p>	<p>健康寿命というようなことが叫ばれておりまして、寿命ではなくて、健康にどのくらい生きられるかというのが、人としての大きなポイントではないかと感じております。そうした意味合いでは、小学校、中学校の教育と実践</p>

	<p>というのが、その後のいろいろな基盤になると感じております。体でいいますと、食べたものが自分の体を作っていくわけなのですけれども、食べるだけでいいかということ、決してそんなことはなくて、人も人である前に動物ですので、しっかりと動かなければ、食べたものは効率よく自分の体にはなりません。食べること、それから運動することがまずもって根本にあって、それが体を作って、体があって初めて頭もしっかりと動いてくるわけでありませす。学校教育だけに限らないのですけれども、健康な体を作るその大もとは、食と運動、そして、健康な精神を作るのが学問・勉強であるという認識は、皆に持ってほしいなと思う次第です。スマホでゲームを30分やるのだったら、30分外に行って、寒い風に当たって、きれいな富士山見ようよ、ということを感じたりもしております。</p> <p>すみません。以上です。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。これは高齢者の方にも言えると思うのですけれども、総合人生大学の北野大先生がよく、「これから100年時代を迎えて、食事と運動と生きがいと、この三つが必要なのです」というお話をされます。学校教育の中では、運動の部分はきちり教員がやっていると思うのですけれども、食事の部分で言えば、江戸川区の特色として、栄養士が1校に1人配置されています。通常の東京都の基準であれば、2校に1人なのですけれども、そういった面では、献立づくりも含めて食育の部分に力を入れているというのが、江戸川区の特徴でもあるかなと思います。その幅をもっと広げていくという方向もありますし、先ほどもおにぎりを作る話が出ましたけれども、春休みや夏休み、冬休みの子どもの食事についてや、1人ずつの栄養管理を今後どうしていくかなど、いろいろなことが思い浮かんできます。確かに体を作る大事な時期だと思いますので、学校とは別に、行政で言えば保健所にも栄養士がいるわけなので、そういったところと、うまく密接にかかわりながら、前に進めることができればと思っています。今のお話のとおり、子どもの時代の習慣というのが、ずっと残るとも言われていますので、行政も一生懸命そこにかかわっていくべきだと思っています。</p> <p>ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。</p>
庭 野 委 員	<p>主な意見の四つ目に、いじめの問題や不登校について書かれております。いじめとか不登校というのは、対応に苦慮されているところが多いと思います。もちろん、こういったことが起こった後の対応は重要ですが、起こる前のことを、私は考えていきたいと思っています。そのためには、教員</p>

はもちろん、子どもにかかわる地域の方や保護者、みんなでその子のよいところ探しをするような雰囲気醸成していくのがよいと、常に考えています。どうしても、親の目で見たり、あるいは地域の目で見たり、教育者の目で見ると、子どもの足りないところばかりを見がちなのですけれども、子どもは、足りないところとすぐれたところ、両方を必ず持ち合わせています。よいところをできるだけ言葉にして伝えてあげることが、今の大人には少ないのではないかと思うのです。よいところをたくさん、それもたくさんの人の目を見て、ほめてあげる。一つのことを一人の人に言われるだけじゃなくて、「これは親にも言われた、先生にも言われた、B先生にも言われた、C先生にも言われた、D先生にも言われた、地域のあのおじさんにも言われた。自分は、よいところが本当にあるのだ。一人だけに認められるんじゃないで、こんなに多くの人から言ってくれるのだ」ということは、きっと子どもも喜ぶことだろうと思いますし、また、それが力となって、他のことに発揮できるエネルギーになっていくのではないかと思います。

私は「ほめ言葉のシャワー」と言いたいのですけれども、それをできるだけいろいろな場面で子どもに与えてあげてほしいなと思っています。それによる効果があるということも、何かの実践の記録で見たことがあります。難しいことだとは思いますが、ぜひ、そういう目で見ることが出来る大人も育てていきたいなというふうに考えているところです。

以上です。

区 長

ありがとうございます。起こらないようにするという視点は、私もとても大事ではないかと思っています。今年亡くなった緒方貞子さんが、問題が起こった後の対応、つまり川下の対応も大事だけれども、問題が起こらないようにするという川上の対応も、同じくらい大事なのだということをおっしゃっていました。まさに、今、庭野先生がおっしゃった、起こらないようにするための一つの方策を示していただいたのではないかと思います。ありがとうございます。他にございますでしょうか。

蓮沼委員

主な意見の四つ目、「いじめの問題や不登校」について、いじめ、不登校も大きな問題なのですが、プラス虐待です。虐待は、学校で発見するケースもあるし、もちろん電話連絡いただくこともあるのですけれども、虐待の発見や早期対応含めて、「家庭・地域との連携強化」のところに、今度、江戸川区が児相を4月から開設するわけですから、言葉として児相のことを入れていくのもどうかと思いました。

区 長	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。確かに、学校というのは、日々、子どもと接していますので、虐待に対するアンテナを高くするというのは、とても大事な話だと思います。まさに、これからそういった児相との連携強化というのも大切になってくると思っています。</p>
子ども家庭部長	<p>4月から、児童相談所、江戸川区でオープンします。濃淡はありますが、いろいろな形で困りごとを抱えているお子さんがいらっしやると思います。そういう子どもたちのよりどころとなるようにしたいと思っています。例えば一時保護所で言えば、「もうあんなところ、二度と行きたくない」というのが、今の子どもたちに言われていることなのですけれども、私は、「何か困ったことがあったら、あの一時保護所に駆け込んでいこう」と思ってもらえる、そういう一時保護所、児童相談所にしたいと思っています。</p> <p>学校教育現場は、子どもを守る第一線でもありますので、今、先生のご指摘は、そのとおりだなと強く痛感したところです。</p> <p>区長、1点いいですか。先ほどの家庭教育のところ、ちょっと皆様方のお話を聞いていて、実感したところがあるのです。確かに、家庭は人格形成の場であって、親がその子にとっての第一義的責任を有するのは当然であります。しかし、先ほど委員の先生方がおっしゃられたとおり、家庭の中にはさまざまなストレス、経済的な問題や夫婦間の問題、あるいは子どもに対する教育観の問題があり、なかなか子どもに向き合えないという親が多いのは事実であります。そこには、我々の基礎的なサービスを使いながら、あるいは、地域の皆様のお力をいただきながら、さまざまな形でご支援を申し上げていくということになるのだと思います。</p> <p>もう一つ、私が今、児童相談業務、あるいは成長支援業務にあたりながら、一方では保育行政にあたりながら、今強く感じているところが、子どもへのアプローチであります。何かといいますと、「今、子どもの教育を受容するスポンジがかたくなってはいないですか」ということを痛感しています。なかなか教員が教え込んでも、それをじっと聞いて我慢できないというようなところがあるのではないかと感じていまして。つまり、自分自身を認める自己肯定感だとか自尊心だとか、他者を思いやる気持ちだとか協調性だとか、そんなところを育む取組みが、就学後の教育にとっては非常に重要だろうと思っています。今、幼児教育の無償化を進めていますが、あれは本来、保育の無償化ではなくて、幼児教育の無償化であったわけで、それは何かというと、</p>

	<p>偏差値などでははかれない、就学前の非認知能力、本来、人格形成の基礎となるようなものを育むところを、この集団教育の中で学ばせよう、ということで始まったと理解していきまして、そういうことを充実させることも、この家庭教育を補完する意味で、非常に重要になってくると思った次第であります。</p>
区 長	<p>ありがとうございます。それぞれ委員からご意見を頂戴しましたけれども、そろそろ、いただいた時間が迫ってまいりました。特にこれは言っておきたいということがあれば、お願いをいたします。</p>
古 巻 委 員	<p>上野(前)教育委員がよくおっしゃっていたことですが、新渡戸稲造の「武士道」にある、「惻隱の情」は大変大事な精神だと思います。新渡戸稲造が云々ということではなくて、「惻隱の情」が、基本的に生きる姿勢としてとても大事なのではないかなということを感じますので、そのことも一つ、私の意見としてつけ加えさせていただきます。よろしく申し上げます。</p>
区 長	<p>委員の皆様から貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。今日は三つ、家庭教育、地域、学校というテーマでご意見をいただきました。ただ、これはそれぞれが独立しているのではなく、冒頭、蓮沼委員がおっしゃったとおり、この三つが重なり合い、かかわり合って、初めて一つの矢になって、大きな力を発揮すると思っています。そういったところにも重きを置いた教育大綱になればいいなと思っています。そして、今日いただいたご意見を生かした形で、新たな教育大綱を作っていきたいと思っています。できました段階で、もう一回、委員の皆様にご諮らさせていただきたいと思っています。</p> <p>ということで、総合教育会議、次の回を予定させていただければと思っています。そのときには、今日いただいた意見を反映した教育大綱をお示しいたします。</p> <p>そして、ちょっと先の話もさせていただければと思うのですが、もし委員の皆様のご合意をいただいて大綱案がかたまりましたら、次は、ぜひパブリックコメント、要は区民の皆様にご諮ってご意見をいただくのも、一つの方法かなとも思っています。そして、そのご意見をいただいたものを見ながら、またこの大綱に反映できるかどうかというところを議論させていただいて、完成という手はずをとっていくことができればと考えております。そういった進め方を考えておりますが、よろしいでしょうか。</p>

区 長	<p style="text-align: center;">〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>ありがとうございます。今回は、新たな教育大綱案が作られた段階で、また、この会議を開かせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>そろそろ時間になってまいりました。今日は、本当にお忙しい中、いろいろな意見を賜りまして、まことにありがとうございました。</p> <p>以上で、第1回目の総合教育会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>閉会時刻 午後2時25分</p>
-----	--